



イスラエル旅行で知り合い、友人となった稲垣様より、「アートブック NOW」を送っていただきました。

彼女は旅行の一月後に、今度は、ピースボートに乗って、世界一周をめざし、83日間のクルーズで23か国を回ってこられました。彼女は、船上での交流、学習はもちろんのこと、インランド・ツアーの世界各地の様子を見聞きされ、体験なされて、リアルタイムで、丁寧に、ブログ上で、45回にわたって、発信してこられました。私は目を丸くする思いでそのブログを楽しみに読んだのです。

ピースボートには「水先案内人」と名付けられた講演者が同乗され、様々な平和への取り組み、情報をそれぞれの切り口を持って熱く語られたそうです。その中で、スティーヴン・リーパー氏について何度も伝えて下さり、彼が主宰されている活動が上梓し、出版された左のご本を送って下さったのです。

リーパー氏はアメリカ人ですが、広島平和文化センターで働いてこられました。彼の父上のディーン・リーパー氏は函館教会と関係のあったカナダ人宣教師アルフレッド・ストーン氏と共に、1954年に、青函連絡船「洞爺丸」に乗船していましたが、台風により、遭難死されました。その最後を目撃した友人によって、兩人とも救命胴衣を日本人に譲ったことが伝えられています。

リーパー氏はピースボート上で、「ほんとうに核はなくせるの？」という問いかけをされながら、レクチャーを何度か開かれたそうです。ピースボートには被爆者の方々も乗船され、寄港地ごとに集会を持って、核廃絶を訴えておられたそうです。稲垣さんは核廃絶の取り組みに自分はどうか関わったかと自分自身が問われたと告白されています。そして、リーパー氏が建設中の「平和文化村」(広島県三次市甲奴町)に行ってみたくて願っておられます。

現在、核弾頭は世界に16,000発あるとのこと。この本は核兵器が何のために存在しているのか、生まれてから今までの足跡、そして広島、長崎での惨状、核兵器のもとでうごめいている人間のありさま、その闇を短い文とアートで表しています。今、問われていることは、「武装して得る平和か」、「武装放棄して得られる平和か」、を私たちの持っている武器「想像力」を、スイッチ・オンして、考え、求めようと訴えているのです。そのために隣の人と語り合おうと熱い思いを伝えています。

8月6日に広島で平和祈念式典が行われました。8時15分の原爆投下の時間に合わせ、黙祷を共にいたしました。去年お会いした盛谷牧師の奥様も、彼女の姉上お二人も被爆者名簿に記名されて、広島に眠っておられます。苦しみと悲しみは消えることはありません。広島市長は平和宣言と共に、被爆者への支援を政府に求め、子ども達も核兵器の悲惨さを語り伝え、平和を実現していく努めを果たすと、強い決意をもってアピールしました。また、安倍首相が今年中には「核兵器廃絶決議案」を提案するとつもりであると明言しました。安保法案を強行採決した安倍政権は広島の被爆者から平和に反すると抗議をうけています。日本の97%、世界の76%の人々が核兵器の廃棄を望んでいます。日本こそ、核兵器廃絶の訴えのリーダーシップを取って、行くべきと思います。

TV報道の最後ごろに、スティーヴン・リーパー氏の顔が映し出されました。彼はアメリカ人、原爆を投下した国の人です。その彼が、異国日本に住み、父上と同じように、日本人を愛し、世界の人々の命を大切に思って、このように活動しておられる。私も少しでも平和のために働きたいと願っています。稲垣様ともこのことでお話しが出来ればいいなあと願っています。